

学校研究課題

**学ぶ楽しさを実感し、自ら学ぶ児童の育成**

～魅力ある授業への改善を通して～

**1 研究計画****(1) 課題設定理由**

本校では、数年前から、コミュニケーション力の育成のため、自分の思いを言葉にして伝え合う取組を続けており、昨年度は、言語力の向上を意図して研究を進めてきた。研究授業と並行して言語力育成を重点とした「まなびタイム」を日課の中に設けたり、ICTの活用を図ったりして、自分の思いを豊かな語彙で表現できるような取組をしてきた。それらの成果として、授業の中で、ペアやグループでの学び合いとなるコミュニケーション力が育ちつつあり、難しい課題にもあきらめないうり取り組む姿が見られるようになった。しかし、児童自身が学ぶことの楽しさを見い出し、自主的に学びたいと感じるところにまでは達していない。

そこで、本年度は、言語力の育成という視点にとらわれず、様々な教科・領域の中で学ぶ楽しさを実感し、主体的に学習に向かっていく力を育成したいと考え、本課題を設定した。

「学ぶ楽しさ」を実感するとは、単に興味・関心をもつだけでなく、「わかった」り「できた」り「友だちと学んでよかった」と感じることである。学習内容に関して確実に知識や技能の習得を保障し、楽しさを実感できるような学習活動を積み重ねることで、自発的学習を促す意欲につながっていくものとする。そのためには、授業を改善することが必要である。本校では、ねらいの提示とその振り返りの活動については、概ねなされている。そこで、今年度は、ねらいの吟味と教師の発話（ねらいに迫る発問、説明、指示、助言）の工夫を中心に研究し、子どもにとっては言うまでもなく、教師にとっても魅力ある授業をめざしていきたい。

**(2) 研究の仮説**

各教科・領域の授業において、ねらいの吟味と教師の発話（ねらいに迫る発問、説明、指示、助言）を工夫することで、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業になり、自ら学ぶ子どもが育つであろう。

**(3) めざす児童像****自ら学ぶ子ども**

- ・学習に集中している子
- ・学ぶ姿勢が身に付き、自分で課題を解こうとする子
- ・自分の考えをもち、進んで表現している子

**2 研究の内容（◎は本年度の重点）****(1) 研究授業・授業研究を通しての実践的な研究**

◎ねらいの吟味

◎教師の発話（ねらいに迫る発問、説明、指示、助言）の工夫

- ・ユニバーサルデザインのアイデアの共有化（わかりやすさの追究）
- ・視点児童と支援の手だての明確化

**(2) 学習意欲と効果を高めるための学習環境の整備**

◎学習規律の継続指導

- ・掲示物の見直し
- ・家庭学習の充実

**(3) 学力調査の分析**

- ・全国学力学習状況調査の分析とパワーアップシートによる習得状況調査
- ・とちぎっ子学力調査の分析とパワーアップシートによる習得状況調査

◎各種調査問題の指導計画への位置づけ